

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>の商工会を軸に中小生産者や事業者の新規参入を促す仕組みづくりが重要と考える。具体的には、返礼品登録に向けた商品開発・ブランディングなどのアドバイスを、地域単位の研修として展開し、事業者が自ら地域の資源を磨き上げ、返礼品化によって販路を拡大していく体制が必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 中小生産者や中小事業者の参入状況をどのように評価しているか伺う。</p> <p>(2) 返礼品開発を地域単位で実施する仕組みづくりについての考えを伺う。</p>	
<p>4 中学校部活動の地域展開について</p>	<p>来年9月から、各中学校の部活動について地域展開が開始予定であるが、文化系部活動については厳しい状況と思われる。地域での受け入れをはじめ、地域での指導者・練習場所・講師の問題・楽器の保管場所など、展開時期ありきではなく、それぞれの部活動を希望する生徒の思いが叶えられる組織やルールなどの体制づくりが重要と考える。</p> <p>大館市では、教育経験と行政経験を併せ持つ人材が中心となり、運営体制として、練習協力者・地域指導者、専門講師・統括責任者・運営事務局など細部にわたり人選し、役割分担を決め、コーディネーター役が各学校の顧問等との連携体制を構築している。</p> <p>本市も、吹奏楽連盟との連携を図っているが、地域での人材確保も重要であり、地域の協力も必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 中学校部活動の地域展開の進捗状況について伺う。</p> <p>(2) 吹奏楽部をはじめとした文化系部活動の地域展開の実施時期についての考えを伺う。</p> <p>(3) 大館市のように、地域での練習協力者や地域指導者、コーディネーターなど組織体制づくりも必要と考えるが所見を伺う。</p> <p>(4) 指導者の謝礼を含め、はまクル認定クラブの運営費用について伺う。</p> <p>(5) はまクル認定クラブの活動場所として、校舎内を活用するための統一的な運用について伺う。</p>	<p>野秋教育長</p>
<p>5 発達障害や情緒障害のある人に関するアセスメントツールの活用について</p>	<p>近年、発達障害や情緒障害のある子どもが増加しており、ライフステージに応じた適切な福祉サービスへつなぐためのアセスメントが重要である。</p> <p>浜松市障がい者自立支援協議会では、「こどもアセスメントツール」を作成し、活用に向けた取組を進めているようだが、市としての活用方針やさらなる周知について伺う。</p>	<p>小松健康福祉部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>6 障害者グループホーム運営の実態把握と、不正防止に向けた取組強化について</p>	<p>また、障害のある人の進路選択においてもアセスメントは不可欠であり、本年10月には「就労選択支援」が創設された。支援者が適切に進路を評価できるよう「就労支援のためのアセスメントシート」が作成されたが、このシートの今後の展開について伺う。</p> <p>障害者グループホーム（共同生活援助）についても、地域生活を支える重要な社会資源として整備が進む一方、一部の利益を優先した事業者による不適切な運営や虐待、不正請求などの問題が全国で報告されている。</p> <p>本市でも、移行支援や地域生活を希望する方の受け皿としての役割が拡大する中、こうした不適切事案の防止とサービスの質の確保が重要である。</p> <p>そこで、本市におけるグループホームの事業所数と利用定員数の直近3年間の推移、運営指導や監査の実施件数、改善報告や改善命令・取消に至った件数について伺う。</p> <p>併せて、不適切運営の防止とサービスの質の確保に向けた取組についても伺う。</p>	<p>小松健康福祉 部長</p>